

マクロライド少量長期投与療法について

抗生剤の投与は長くても2週間以内というのが一般的な投与方法です。慢性副鼻腔炎や滲出性中耳炎に対してマクロライドという抗生物質を少量で、長期間（3～6 か月）内服する治療方法です。

この治療法は長期間抗生剤を内服しても重篤な副作用が少ないといわれております。

マクロライドは主に気管支炎や肺炎等に効果のある抗生物質で、呼吸器科ではびまん性汎細気管支炎などにマクロライド少量長期投与療法が行われております。ニューマクロライドといわれるクラリスロマイシン（CAM14 員環マクロライド）の方が、効果があるとされております。

慢性副鼻腔炎は主に細菌感染がきっかけで起こり、炎症産物により鼻粘膜が障害されて、粘液の分泌が亢進し、鼻汁の排泄の通路が妨げられたりします。マクロライドはこれらの炎症産物を減少させたり、鼻汁の分泌を抑制するのに有効です。少量のマクロライドは本来の抗菌作用を期待するのではなく、抗炎症作用、免疫系への作用、細菌のバイオフィーム形成や付着抑制作用などを期待して投与されます。マクロライド少量長期投与療法は滲出性中耳炎の治療に応用される場合もあります。小さいお子さんに対してもマクロライド少量長期投与療法は大人の方と同じぐらいの有効率があるといわれております。